

令和4年9月5日

養父市議会議長 西 田 雄 一 様

養父市新文化会館整備事業等特別委員会  
副委員長 谷 垣 満

### 養父市新文化会館整備事業等特別委員会中間報告書

本特別委員会において調査したことを、次のとおり中間報告する。

#### 記

- 1 調査年月日 令和4年6月2日（木）、8月18日（木）
- 2 調査事項（1）八鹿文化会館・八鹿公民館解体工事の進捗状況について  
（2）養父市文化会館等建設事業について  
（3）Y Bファブの利用状況について
- 3 調査内容

上記について、市民生活部公民館・まちづくり文化交流課より説明を受け調査を行った。

旧文化会館・公民館の解体工事は、建物基礎部の解体による近隣への振動・騒音を軽減させるため、圧搾機を使用する施工に変更したことや、アスファルト舗装復旧面積を追加したことによる作業日数増加のため、工期を1カ月延長し、令和4年7月29日に変更した。その後、7月22日に工事を完了し、検査・引き渡しを終えている。工事金額は、当初の契約金額に1,115万4千円を増額し、1億9,375万4千円となった。増額の要因は、防音対策の追加、アスベスト処理費用の増加、アスファルト舗装復旧費用の増加、工期延長に伴う仮設使用料、交通整理員費用の増加などである。この解体工事が完了したことにより、養父市文化会館等建設事業の一連の工事は全て完了し、総事業費の決算額は、43億7,701万円となった。内訳は、建設工事費30億円、備品・付帯工事費3億4,945万円、解体費1億9,475万円、用地費6億2,328万円、CM・設計・工事監理等委託費2億953万円である。

本年4月から7月末までの期間におけるY Bファブの利用状況は、ホール

を使用したイベントの利用者数 5,686 人で、舞台のみを使用した利用者数も 547 人あった。リハーサル室や展示室、図書館棟も含めた会議室などの利用者数 12,614 人を合わせ、4 カ月間で 18,847 人の利用があった。なお、人数は使用許可申請や観客数の集計であり、休憩室や学習室、図書館や公園の利用者数は含まれていない。

稼働日率は、ホールイベントの稼働日率(利用日数÷利用可能日数) 19.0%、舞台のみの場合や仕込み作業も含めたホール稼働日率は 57.1%であった。その他リハーサル室は 83.3%、大会議室、中会議室ともに 75%を超えるなど高い稼働率となっている。

図書館の貸出冊数と貸出者数は、いずれも月平均で 3,192 冊、792 人となっており、前年度月平均と比較して 1 割程度増加している。自主学習も含めた図書館棟への来館者数は計測していないものの、利用者の増加を実感しているとの報告を受けた。

<まとめ>

旧文化会館・公民館の解体工事は、アスベスト処理を含む大規模な解体工事であったが、説明会の実施や、騒音・振動を軽減させる工法への変更、防音対策の追加など、周辺への影響や不安に十分配慮され、安全に工事が進められたことを評価するとともに、期間中に不便を強いた近隣住民や周辺施設を含む利用者の理解と協力に感謝したい。

YBファブの利用状況については、昨年度と比較してホール、公民館、図書の貸出者数ともに利用者の増加が見られる。グランドオープンから約 1 年が経過し、コロナ禍の影響があるものの、新たな拠点として市民に定着しつつある。旧公民館と比較して、大会議室の縮小による不便さの声もあるが、リハーサル室や音楽スタジオなど新しい設備による利便性と活用範囲の向上が図られている。公園機能充実の必要性は認識しているとの説明を受けたが、西側の臨時駐車場や芝生広場の活用について、大型遊具の要望も含め利用者の声や市民意見の反映に努められたい。本年 7 月に行われた「YBファブ ナツフェス！」は、地元地区民と連携し、商工会や社会福祉協議会などと共に、昼夜を通じて多くの人が集まる一大イベントの開催となった。今後も新たな拠点を軸として協働の事業を通じた、文化・芸術の推進と共に、周辺地域の活性化につなげられたい。また、旧施設と比較して、若い世代の利用が増えたことは大きな成果であるが、その他にも、お年寄りや障がいのある方、市外の住民も含めて、過去に利用が少なかった方にスポットを当てイベントに直接招待するなど、積極的な利用機会の拡充と利用者の範囲拡大に努められたい。